

5-a 用途と艇種と予算

フネを選ぶ基準は人それぞれですが、予算も時間もいくら使ってもかまわないから、とにかく気に入ったものを、という方は少ないでしょう。多くの方々は、限られた予算の中で自分の考えるボーテイングのスタイルを実現するため、最も適したモデルを選ぼうと、いろいろ試行錯誤をなさっているはずです。

ただ、そのためには、自分自身が楽しみたいとするボーテイングのスタイルを、ごく具体的かつ現実的なかたちで想像する必要があります。そしてそのためにはある程度の知識が必要です。

*

プレジャーボートの用途を考える場合、よく見かけるのは、まずそれを「クルージング」と「フィッシング」という2つに分ける、ということでしょうか。

しかし、実際に世の中のフネが、たとえ大まかにでもこの2種類しかないかといえば、そんなことはありません。

たとえば、水上スキーやウェイクボードのためのトーイングボートのほとんどは、それ専用特化したものであり、クルージングボートでもフィッシングボートでもありません。たしかに、軽食や飲み物を積みこんで、ちょっとしたデイクルージングに出かけることはできるでしょうし、ルアーとロッドを持ち込んで、キャストイングなどを楽しもうと思えばできなくはありませんが、それはフィッシングボートでクルージングに出かけたり、クルージングボートでフィッシングに出かけたりするのと同じです。

ポンツーンボートやハウスボートのように、航走能力に関してはせいぜい「移動

できる」という程度ながら、水上で楽しく過ごすのに最適なタイプのフネというのがありますし、ハイパフォーマンスボートのように、航走能力を第一に考えたボートもあります。

ボーテイングのスタイルを少し具体的に考えただけでも、「クルージング」と「フィッシング」という、ふたつの概念だけでボーテイングをとらえるのが難しいことは分かるでしょう。

*

「何がしたいのか」は、できるだけ具体的なかたちで考えないと、あまりフネ選択の役には立ちません。

「フィッシングをしたい」では、まだ大雑把過ぎます。キャストイング、ジギング、トローリング、深場を狙った釣り、浅瀬での釣り、流し釣り、ふかせ釣り……などなど、フネで楽しむ釣りにもいろいろあります。それぞれの釣りに適したフネの特性やアレンジは異なったものですし、釣行する海域によって、フネに要求される性能や航行範囲も異なります。

なかには、とても一般のプレジャーフィッシングボートでは出かけられない海域での釣りというものも存在するわけで、どうしてもそこでのフィッシングを楽しみたいということであれば、これはもう、プレジャーボート購入は中止し、そのための費用を他の方法での釣行にまわしたほうが、よほど楽しい釣りができるかと思えます。

もちろん、できるだけ具体的に考える必要があるというのは、フィッシングに限ったことではありません。

とはいえ、これからフネを購入しようと

いう方にとっては、フネの使い方を具体的に想像できない部分というのもあるでしょう。これはもう、やむを得ないところです。ただ、ほとんどの場合、そうやって想像し切れなかった部分が後悔につながったりする可能性はあるわけで、そういうリスクを減らしたければ、その分、最初にいろいろと悩み、考えておくしかありません。

*

フネを選ぶに際しては、必ずその予算にある程度の余裕を持つておくことが必要です。

どんなに考え抜いて購入したフネでも、「ここをこうしたら」「あそこをそうしたら」という個所が出てくることはたしかです。し、艀装品や航法機器の中には、実際にそのフネを使ってみてから思いつくものもあるでしょう。

購入したフネにいろいろと手を加え、艀装を追加して、自分なりのフネを作り上げていくのもボーテイングの楽しみです。それを楽しむことができるかどうかというのは、もっぱらフネ購入後に残っている予算によります。

航法機器などは、フネを購入する段階で装備していることも少なくないはずです。また、あらかじめ必要と思えるオプション装備や汎用艀装品なども、フネを購入する際、併せて購入するのが普通でしょう。それでも、どこかしら手を加えたいところですが、フネという乗り物の面白いところでは。

具体的にどのくらい予算の余裕を見ているかというのは、フネによりけり、サイズによりけりですから、一概にいくらということではできません。ただ、その気になってあれやこれやを改装し、艀装品や航法機器を追加していくと、事前に考えるよりも費用はかかるものです。

国産の小型艇の場合には、そもそもの標準装備がシンプルなことや、日本国内における艀装品や航法機器が決して安いものではないことなどもあり、もう1艇、同じフネを購入できるくらいの費用がかかったという例は、実のところ、けっこうあつたりします。

